

蘆嶋五郷

日長社の社伝によると、昔、この地域は海中の島で、(中島町という地名は、そのことに由来する?) 葦が茂った葦島であった。その後、しだいに開け、日久良志の里と呼ばれるようになり、当地を「日奈加島」と云ったという。第26代継体天皇の御代(507年~531年)に当地が開拓され、五穀豊穡・人民繁栄の守護人として日向国笠狭御崎の神を勧請して日長神社を創祀、日長の宮と呼ばれたと伝えられている。

平安時代(794年~1185年)、六ツ美は碧海荘の中にあつて、碧海荘は碧海郷、和田郷、卜部郷、中島郷および江原郷などに分れていた。碧海郷、和田郷、卜部郷、中島(河邊)郷および江原郷をまとめて蘆嶋(あしじま)五郷と呼んでいた。蘆嶋五郷は現在の、占部川、矢作川、矢作古川、広田川に囲まれた地域で、海は江原町(西尾市)近くまで入っていた。蘆嶋五郷は名前の通り、蘆が生い茂った地域であった。



[愛知県碧海郡誌]

・碧海郡の沿革：碧海荘の項に

大部分は矢作川の東にあった荘園で中世に三条女御の所領となった。六ツ美村は全部碧海荘に含まれる。矢作川の西は中切、川端、宗定、中島(畝部郷：現豊田市、上郷)などが含まれる。矢作川の東側は蘆嶋五郷である碧海郷、和田郷、卜部郷、中島郷などから構成されている(碧海郡誌では江原郷の記載はない。江原郷は幡豆郡江原村付近と思われる。荘園は郡をまたいで成立は可能と考えられる)。

・碧海郡の沿革：上青野・下青野・在家・合歓木・高橋の項に

青野の地は蘆嶋五郷の1つである碧海郷と呼ばれていた。上青野村から合歓木村、在家村、高落村(現西尾市)が分かれていった。

・碧海郡の沿革：三ツ木・福桶・安藤の項に

古くは、上三ツ木、下三ツ木、上福桶、下福桶、安藤を三ツ木五箇村と呼んだ。1651(慶安4)年に領主、水野監物忠善が三ツ木を上三ツ木、下三ツ木に分村した。1652~1655(承應年中)の間に、福桶が上福桶と下福桶に分村した。

・碧海郡の沿革：中島・高畑の項に

中島、高畑の地は蘆嶋五郷の1つである河邊(かわべ)郷と呼ばれていた。醍醐天皇(885~930)の延喜(901~923)の御代に、四条方盛三河守がこの地に赴任し、河邊(かわべ)郷を中島郷と改名した。

・碧海郡の沿革：正名・定國・中・國正の項に

正名・定國・中・國正の地は蘆嶋五郷の1つである卜部(うらべ)郷と呼ばれていた。866(貞観8)年に卜部日良麿が三河權守に任命されて、この地に至る。この地を開墾し、卜部郷と名付け

た。定國は昔、定郷と言われていた。白田彦連が郡名を定めたと言われている。卜部は占部や浦邊とも記載する。

・碧海郡の沿革：上和田・宮地・井内・野畑・下和田・坂右左・法性寺・牧御堂・上土井・下土井・赤澁・中の郷・福島新田の項に

上和田・宮地・井内・野畑・下和田・坂右左・法性寺・牧御堂・上土井・下土井・赤澁・中の郷・福島新田の地は蘆島五郷の1つである和田（わだ）郷と呼ばれていた。後世に至り、和田郷12村と呼んだ。12村の中に、中の郷は含まれていないが、青野村の記述には、中の郷は和田郷の1村とある。糟目神社は和田郷の郷社である。

本項は以下の資料を引用している。

[愛知県碧海郡誌]

発行所：(株)千秋社
印刷所：図書印刷(株)
発行日：2000(平成12)年6月15日
原著：参河國碧海郡誌
発行者：碧海郡教育會
印刷所：江戸川印刷(株)
発行日：1916(大正5)年10月15日

[わたしたちのふるさと 六ッ南 114 選]

監修者 総代会長 平井 良美
社教委員長 近藤 武美
著者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年児童 114 名
(平成 25 年 3 月 19 日卒業)
編者 岡崎市立六ッ美南部小学校 6 年担任
権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛
発行日 2013(平成 25)年 3 月 1 日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社
製本 ブラザー印刷株式会社
発行 岡崎市立六ッ美南部小学校